

浜松医科大学

技術部年報

2020-2021

Annual Report 2020-2021

2020-21 年度 技術部年報 目次

2020 年度 技術部活動報告	3
1. 技術部における 1 年間の活動	3
1) 技術部会	
2) 技術部セミナー	
3) グループ長会議	
4) 医のプロムナードにおけるポスター掲示	
5) 局所排気装置 定期自主検査	
2. 令和 2 年度 (2020 年度) 学内技術報告会・研究会	4
1) Thermo Q-Exactive を用いた低分子、ペプチド定量用検量線の測定 機器利用支援グループ・先進機器共用推進部 近藤未菜子	4
2) 高圧凍結・凍結置換法 (凍結固定) を用いた浮遊細胞の超微形態観察 機器利用支援グループ・先進機器共用推進部 徳永雄平	4
3) LineBot を用いた Push 通知システムの開発 機器利用支援グループ・先進機器共用推進部 村松 歩	4
4) 学内の労働安全衛生について 教育研究支援グループ・医療廃棄物処理センター 松下清文	4
5) 大学等における技術組織、技術職員の在り方 技術職員の見える化?見せる化? 教育研究支援グループ・器官組織解剖学講座 佐々木 健	5
3. 技術部学外研修および出張報告 (新型コロナウイルスの感染状況による中止を含む)	6
- 出張報告 「令和 2 年度東海・北陸地区国立大学法人等 技術職員合同研修に係る技術職員代表者会議 (web)参加報告」 機器利用支援グループ 太田 勲	7
「高エネルギー加速器研究機構 技術職員シンポジウム」 教育研究支援グループ 佐々木 健	9
2020 年度 技術部組織・体制	11
2021 年度 技術部活動報告	12
1. 技術部における 1 年間の活動	12
1) 技術部会	
2) 技術部セミナー	

3) 画像機器と画像解析の基礎セミナー	
4) グループ長会議	
5) 医のプロムナードにおけるポスター掲示	
6) 局所排気装置 定期自主検査	
2. 令和3年度(2021年度)学内技術報告会・研究会、定年退職者講演	14
－ 学内技術報告会・研究会	
1) 「化学物質管理の大改正について」 法令準拠型から自立的な管理へ 教育研究支援グループ・医療廃棄物処理センター 松下清文	14
2) 腫瘍病理学講座における業務について 教育研究支援グループ・腫瘍病理学講座 大森志保	14
3) 手術手技向上研修(CST)の紹介 教育研究支援グループ・分子解剖学講座 相羽民人	14
4) 医用動物資源支援部の業務と自身の研究内容の紹介 教育研究支援グループ・医用動物資源支援部 飯島健太	14
5) 生物学技術研究会 3分科会の報告 教育研究支援グループ・器官組織解剖学講座 佐々木 健	15
－ 定年退職者講演	
1) 「皆様に支えられた36年」 機器利用支援グループ・先進機器共用推進部 技術専門職員 川端弥生	16
2) 「電子顕微鏡とともに歩んだ38年間」 機器利用支援グループ・先進機器共用推進部 技術専門員 太田 勲	18
3. 技術部学外研修および出張報告	20
－ 出張報告	
「富山大学技術職員研修(オンライン)参加報告」 教育研究支援グループ 佐々木 健	22
「令和3年度東海・北陸地区国立大学法人等 技術職員合同研修に係る技術職員代表者会議 (web)参加報告」 技術部グループ長会議 太田 勲ほか	25
4. 職員表彰	27
令和3年度 医学教育等関係業務功労者表彰 太田 勲 技術専門員(機器利用支援グループ)	
2021年度 技術部組織・体制	27

2020 年度 技術部活動報告

1. 技術部における 1 年間の活動

1) 技術部会

第 1 回技術部会 2020 年 7 月 9 日 講義実習棟 3 階 301 教室
令和 2 年度活動計画、執行部紹介・挨拶

第 2 回技術部会 2021 年 3 月 23 日 講義実習棟 3 階 301 教室
令和 2 年度事業報告、会計報告、令和 3 年度事業計画、その他

2) 技術部セミナー

第 1 回技術部セミナー（オンライン WEB 開催） 2020 年 12 月 23 日
第 26 回静岡大学技術報告会を浜松医科大学にて中継開催（参加者 11 名）

第 2 回技術部セミナー（オンライン WEB 開催） 2021 年 3 月 8 日
演題：「解剖組織学：リンパ管について」 発表者：佐々木 健
（静岡県鍼灸師会の学術講演会を再編した動画を web 配信）（参加者 38 名）

3) グループ長会議 毎月開催（計 12 回） 場所：医工連携拠点棟 204 室

第 1 回（4 月） グループ担当業務、新年度活動計画、予算案

第 2 回（5 月） 自己評価面談日程調整、東海北陸地区合同研修、局排装置定期自主
検査のサポート体制

第 3 回（6 月） 自己評価三者面談報告、東海北陸地区合同研修日程、医のプロムナード
掲示発表募集

第 4 回（7 月） 技術部会日程調整、東海北陸地区合同研修推薦者決定、局排装置定期
自主検査講習

第 5 回（8 月） 技術部会報告、東海北陸地区合同研修中止、局排装置定期自主検査
受講者、運営委員会議題

第 6 回（9 月） 文科省科研費公募、セミナー開催計画、補正予算

第 7 回（10 月） 東海北陸地区代表者会議報告、WEB サイト計画

第 8 回（11 月） 医のプロムナード発表ポスター掲示、学外研究会

第 9 回（12 月） WEB サイト運用具体化、管理職研修情報収集

第 10 回（1 月） 技術発表会日程、予算執行、勉強会、技術カタログ、人事など審議

第 11 回（2 月） 技術発表会開催調整、予算執行報告、運営委員会対応

第 12 回（3 月） 次年度事業計画（案）、予算計画（案）、技術部会開催日程

4) 医のプロムナードにおけるポスター掲示

令和元年度技術部 学内技術報告会・研究会の紹介（10 月より掲示開始）

5) 局所排気装置 定期自主検査 （検査台数：100 台）

実施期間：2020 年 9 月 3 日～2021 年 3 月 16 日

2. 令和2年度(2020年度)学内技術報告会・研究会

2021年3月23日 講義実習棟3階301教室

学内技術報告会・研究会 [発表8分、質疑応答3分]

司会 総合人間科学講座 外山美奈

座長 先進機器共用推進部 堀口 涼(演題1、2)、先進機器共用推進部 足立直樹(演題3～5)

1) Thermo Q-Exactive を用いた低分子、ペプチド定量用検量線の測定

先進機器共用推進部・生体分子解析 近藤未菜子

本学の共用機器として使用している質量分析装置にはトリプル四重極 LC-MS/MS(SCIEX 4000 Q TRAP)と Orbitrap LC-MS システム(Thermo Q-Exactive)がある。トリプル四重極質量分析計は高感度な定量に適した装置であり、Orbitrap 質量分析計は高い質量精度で測定可能な装置である。この特徴の違いから、本学では Orbitrap LC-MS システムは精密質量測定や網羅的解析を中心に利用されている。しかし、網羅的解析から明らかになったある成分のサンプル間での差異を測定するためには、厳密には定量測定が必要となる。その定量測定を同じ装置を用いて行うことができれば、網羅的解析に使用した条件をそのまま応用することができるなど利点がある。そこで、Orbitrap LC-MS システムにより低分子とペプチドに関して定量測定用の検量線の作成が可能であるかテスト測定を行った結果を発表する。

2) 高圧凍結・凍結置換法(凍結固定)を用いた浮遊細胞の超微形態観察

先進機器共用推進部・超微形態解析 徳永雄平

電子顕微鏡の試料作製は、一般的にアルデヒド系固定剤(グルタルアルデヒド、ホルムアルデヒド)と重金属系固定剤(四酸化オスミウム)を用いた化学固定法によって組織や細胞などの内部構造(生体成分)を保存する。しかし、この手法は、固定、脱水などの処理過程でアーティファクトが生じる可能性があるなど問題点も多い。そのため、より生きた状態に近い細胞の微細構造を観察することを目的として、組織細胞などを瞬時に固定することができる急速凍結法が近年利用されている。この技法の最大の利点は、形態保持と物質保存性に優れるため微細構造観察および免疫組織化学解析に応用できるという点である。当電顕室には、急速凍結装置の1種である高圧凍結装置、凍結置換装置が設置されており、試料作製も請け負っているが、今後、様々な試料の依頼観察に柔軟に対応していくためには、観察技法の技術習得が必須であると考えられた。そこで今回の目的として、凍結装置の使用法と試料調製法(高圧凍結・凍結置換法)の技術習得を目指した。試料は浮遊細胞である血球細胞および大腸菌を用いた。凍結固定と化学固定をそれぞれおこなった試料の微細形態を比較検討し考察をおこなったので報告したい。

3) LineBot を用いた Push 通知システムの開発

先進機器共用推進部・画像情報解析 機器技術開発 村松 歩

Line を用いたサービスが近年増加している。今回は、LineBot の通知機能を活用したシステムの開発を行ったので、開発手法と共に、様々な活用事例について紹介する。

4) 学内の労働安全衛生について

医療廃棄物処理センター 松下清文

演者は現在、複数の労働安全衛生の資格を取得しており、学内の様々な労働安全衛生業務に従事してい

る。それらの業務について紹介するとともに、学内の安全衛生の状況やポイント等についても説明する。

5) 大学等における技術組織、技術職員の在り方 技術職員の見える化?見せる化?

器官組織解剖学講座

佐々木 健

ここ数年、文部科学省や内閣府の分科会、国大協などにおいて、科学技術イノベーションにおける技術職員の役割が注目され、その中で大学等の技術職員の「組織化」と「可視化」の必要性についても議論がなされている。演者は、先日開催された研究基盤 EXPO2021 に出席し、大学技術職員の可視化に関する情報を収集するとともに、議論も行ってきた。今回、その情報を基に、本学における技術職員の可視化の現状を紹介するとともに、今後の展望・方針等についても議論する予定である。

3. 技術部学外研修および出張報告（新型コロナウイルスの感染状況による中止を含む）

東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修（機械コース）

新型コロナのため中止

2020 年 8 月 26 日～28 日 名古屋大学（名古屋市）

東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修（複合領域コース）

新型コロナのため中止

2020 年 8 月 26 日～28 日 名古屋大学（名古屋市）

局所排気装置等の定期自主点検者養成講習会

佐々木 健、川島充詠、足立直樹

2020 年 9 月 4 日、5 日 静岡大学（浜松キャンパス）

東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修に係わる技術職員代表者会議

太田 勲

2020 年 9 月 30 日 名古屋大学（オンライン WEB 開催）

局所排気等定期自主検査 インストラクターコース

松下清文

2020 年 11 月 9 日～13 日 大阪安全衛生教育センター（大阪府）

令和 2 年度静岡大学技術発表会

太田 勲、佐々木 健（参加者 11 名）

2020 年 12 月 23 日 静岡大学（オンライン WEB 開催）

高エネルギー加速器研究機構 技術職員シンポジウム

佐々木 健（口頭発表）

2021 年 2 月 18 日、19 日 高エネルギー加速器研究機構（オンライン WEB 開催）

第 32 回生物学技術研究会

太田 勲、佐々木 健（ポスター口演発表）、外山美奈（ポスター口演発表）、稲葉勇太

2021 年 2 月 20 日、21 日 岡崎コンファレンスセンター（オンライン WEB 開催）

総合技術研究会 2021

村松 歩、外山美奈

2021 年 3 月 3 日～5 日 東北大学（オンライン WEB 開催）

【代表者会議報告】

令和2年度東海・北陸地区国立大学法人等 技術職員合同研修に係る技術職員代表者会議（web）参加報告

機器利用支援グループ 太田 勲

日 時： 令和2年9月30日（水）10：00 ～ 12：00
方 法： Teams による web 会議
出席者： 30 名（東海北陸地区国立大学法人等 25 機関中 18 機関出席）

要 旨： 今回の技術職員代表者会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、Teams による web 会議となった。議事に先立ち、参加者 30 名の自己紹介が行われた。議題は、合同研修および今後の予定についての報告、令和6年度（2024年度）以降の将来計画について審議された。

議 題：

1. 合同研修および今後の予定について

【令和2年度合同研修】

- (1) 機械コース（担当：名古屋大学） ※新型コロナの影響のため中止
 - ・溶接分野 ・構造解析分野 ・NC 工作機械分野
- (2) 複合領域コース（担当：名古屋大学） ※新型コロナの影響のため中止
 - ・大学でのリスクアセスメントについて

【令和3年度合同研修の開催について】

次年度も新型コロナの影響が懸念されるため代表者の方々の意見をもとに検討し、研修の開催について当番機関に一任することとし、合同研修代表者会議に諮る必要もないこととした。各機関の活動指針など現状を確認の上、次年度当番校の計画として以下のことが提案された。

(1) 電気・電子コース案（担当：名古屋大学）

テーマ： 電子回路（テルミン）の動作解析と製作、Arduino による簡易計測システムの構築
※参加人数は、各々8名を最大とする。新型コロナ感染防止を考慮した上で対面式の開催を予定し、web 開催は視野に入れていない。

(2) 生物・生命コース（担当：生理学研究所、基礎生物学研究所）

テーマ：質量分析、バイオインフォマティクス、遺伝子改変、電子顕微鏡観察を予定している。

受入れ人数は、各コース 3、4 名程度として対面研修で準備を進め、新型コロナ等の影響が出た場合は web 開催に変更してする。web 開催の場合はコース数の減少、コース変更となる。

2. 合同研修の将来計画について 令和6年度（2024年度）以降未決定

令和3年度中にアンケートを取り、可能であれば次年度代表者会議内で議論したいことを報告し承認された。

研修実施当番機関（案）決定後、人事担当課長会議に提出し承認を受ける。また、名古屋工業大学から、合同研修のあり方を含め、以下のような案が出された。会議内で議論し、現行のアンケートとは別にアンケートを取ることもなった。

【名古屋工業大学の提案】

- ・現状のままの合同研修を続けるより、技術組織の変革に合わせたより実践的な専門技術研修と移行した方が良いのでは？
- ・技術職員を対象とした技術以外の研修（マネジメント系）の新設

【名古屋工業大学の提案に対する名古屋大学からの意見】

- ・各大学では独自の研修も行われていると思うので、合同研修は人事交流を重要視して考えたい。
- ・名古屋大学の技術職員は、一部の事務系研修への参加と、独自のマネジメント研修を行っている。

【研修開催の提案】

- ・国立遺伝子研究所から下記の研修が提案され会議内で担当者が説明を行った。
令和6年度以降の生物生命コースの合同研修において「技術職員対象のバイオインフォマティクス講習の開催」を予定し、近隣の機関との共同開催を希望しているとの報告があった。

今年度の合同研修について、研修実施当番機関においては、日程に合わせてギリギリのところまで尽力されたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止となった。不可抗力により、合同研修が中止となったことは非常に残念であった。今回、始めてwebによる会議に参加したが、出張経費や移動時間が節約できるメリットがある反面、参加者の表情や雰囲気をつかみづらいデメリットも感じた。基本的には対面で開催される方が良いが、web会議でも十分意見交換ができるので今後はオンライン形式の会議が増えていくと思われる。

以上。

【シンポジウム参加報告】

高エネルギー加速器研究機構 技術職員シンポジウム

教育研究支援グループ 佐々木 健

期 間： 令和 3 年 1 月 21 日（木）

場 所： 高エネルギー加速器研究機構（茨城県つくば市：オンライン）

参加人数：121 名（39 機関）

テーマ：「高度技術系専門職を目指すには」～エキスパートを育てる～

本シンポジウムは、国立大学・国立高等専門学校・大学共同利用機関等の技術職員の技術の向上と交流を目的に開催されており、今回で第 21 回を迎えた。今回は研究現場における複雑で高度な研究施設、実験機器を扱うために、いかに技術の専門家（エキスパート）を育てていくかをテーマとした。これは、「第 6 期科学技術基本計画に向けた重要課題（中間とりまとめ）」に、高度な専門性を備えた技術職員人材の確保が課題の一つとして示されており、高度技術系専門職員の育成、組織化によるキャリアアップの実現が重要とされているためである。

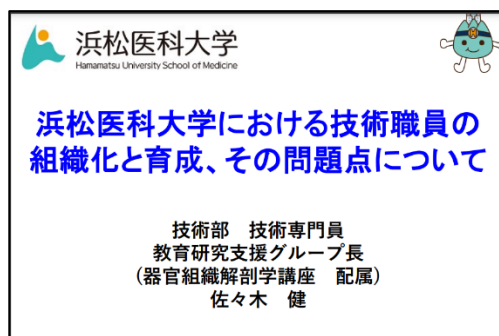
今回は、高エネルギー加速器研究機構の幅淳二理事の挨拶を挟み、全国 9 機関からの発表（9 題）がなされ、最後に全体討論が行われた。以下に今回のプログラム（演題タイトル及び演者等）を示す。

10:00～10:05	開会挨拶
10:05～10:30	大学間連携による人材育成プログラム構築を目的とした NMR 担当 技術職員の活動紹介 北海道大学 木村 悟
10:30～10:55	浜松医科大学における技術職員の組織化と育成、その問題点について 浜松医科大学 佐々木 健
10:55～11:20	高度技術系専門職（エキスパート）を目指すためには 富山大学 平田暁子
11:20～11:45	質量分析担当技術職員の大学間連携による人材育成活動報告 大阪大学 三宅里佳
13:00～13:05	挨拶 高エネルギー加速器研究機構 幅 淳二
13:05～13:30	東北大学マイクロイオンビーム自動収束システムの技術開発 東北大学 三輪美沙子
13:30～13:55	東京工業大学オープンファシリティセンターの取り組みについて 東京工業大学 高橋久徳
13:55～14:20	学内技術研修を通じた技術職員の育成 東京大学 堀吉 満

14:20～14:45	核融合科学研究所技術部における人材育成取り組みの事例紹介 自然科学研究機構 核融合科学研究所 小林策治
14:55～15:20	KEK におけるエキスパートの育成 高エネルギー加速器研究機構 山野井 豊
15:20～15:55	全体討論
15:55～16:00	閉会挨拶



当日のオンラインでの KEK の様子



本発表スライドの 1 枚目(タイトル)

2020 年度 技術部組織・体制

役員名簿

技術部長(兼)	間賀田泰寛	教授	分子病態イメージング研究室
副技術部長(兼)	太田 勲	技術専門員	機器利用支援グループ
機器利用支援グループ			
グループ長(兼)	太田 勲	技術専門員	先進機器共用推進部
副グループ長	足立直樹	技術専門職員	先進機器共用推進部
教育研究支援グループ			
グループ長	佐々木 健	技術専門員	器官組織解剖学講座
副グループ長	外山美奈	技術専門員	総合人間科学講座

担当係一覧

担当業務	リーダー	協力員
総括（学内外連絡・全般業務）	太田	
広報・WEB 関連（技術年報等）	村松	北本綾
部会・学内研修	佐々木	堀口
学外研修・出張・予算処理	外山	神谷
グループ長会議・部会議事録	足立	
歓迎会・祝賀会（懇親会会計処理）	外山、熊切	弘島

人事異動

退職

石野直己 技術専門職員 教育研究支援グループ（医学部付属病院 材料部）2021 年 3 月

採用

近藤未菜子 技術職員 機器利用支援グループ（先進機器共用推進部） 2020 年 5 月
 飯島健太 研究技術職員（URT） 教育研究支援グループ（医用動物資源支援部） 2021 年 1 月

2021 年度 技術部活動報告

1. 技術部における 1 年間の活動

1) 技術部会

第 1 回技術部会 2021 年 8 月 11 日 臨床講義棟小講義室
令和 3 年度活動計画、部長・副部長挨拶、グループ担当業務など

第 2 回技術部会 2022 年 3 月 24 日 看護学科棟大講義室 (4)
令和 3 年度事業報告、会計報告、令和 4 年度事業計画、その他

2) 技術部セミナー

第 1 回 技術部セミナー (オンライン WEB 開催) 2021 年 4 月 19 日
「自己評価票書き方セミナー」 発表者: 佐々木 技術専門員
技術職員の自己評価票の書き方を WEB 配信にて指南

第 2 回 技術部セミナー (先端技術セミナー) 2022 年 3 月 16 日 医工連携拠点棟 411 室
「医学・生物学の研究と診断のためのナノスーツ電子顕微鏡法」
発表者: 河崎 准教授・ナノスーツ開発研究部

令和 3 年度 局所排気装置等の定期自主点検者養成講習会
2022 年 3 月 18 日 総合人間科学棟 旧細菌免疫学 実験室

学内インストラクター (松下 技術専門職員) による局所排気等の定期自主点検者
養成講習会を実施 (今回はコロナ対策により対象者のみの簡易講習)

3) 画像機器と画像解析の基礎セミナー 全 7 回 場所: 医工連携拠点棟 4 階 411 室

生命科学分野の研究に用いられる画像機器と画像解析についての解説するセミナー

第 1 回 よく使われる画像解析の概要と細胞まで拡大してみる顕微鏡のしくみ
講師: 合田 研究技術職員 日程: 2021 年 7 月 6 日 参加者: 5 名

第 2 回 位相差顕微鏡の使い方と ImageJ を用いた画像合成・背景除去・サイズ計測について
講師: 合田 研究技術職員 日程: 2021 年 8 月 3 日 参加者: 8 名

第 3 回 微分干渉顕微鏡 (DIC) の使い方と ImageJ を用いた画像コントラストの調整・
ノイズ除去について
講師: 合田 研究技術職員 日程: 2021 年 9 月 2 日 参加者: 6 名

第 4 回 蛍光顕微鏡の構造 使い方と画像解析のための蛍光像撮影
講師: 合田 研究技術職員 日程: 2021 年 10 月 11 日 参加者: 6 名

第 5 回 透過型電子顕微鏡の基本構造と試料の作製方法
講師: 太田 技術専門員 日程: 2021 年 11 月 25 日 参加者: 8 名

第 6 回 走査型電子顕微鏡の基本構造と試料の作製方法
講師: 太田 技術専門員 日程: 2022 年 1 月 25 日 参加者: 5 名

第 7 回 CT・MRI の基本構造・解析法と ImageJ を用いた立体像構築について

講師：池田 技術専門職員、合田 研究技術職員

日程：2022 年 2 月 22 日

参加者：10 名

- 4) グループ長会議 毎月開催（計 12 回） 場所：医工連携拠点棟 204 室
- 第 1 回（4 月） グループ担当業務、新年度活動計画、予算案、web サイト運用方法
 - 第 2 回（5 月） 自己評価面談日程調整、web サイト内容確認と公開日程調整
 - 第 3 回（6 月） 自己評価三者面談報告、web サイト公開、グループ担当業務確認
 - 第 4 回（7 月） 技術部会日程調整、東海北陸地区合同研修募集、医のプロムナード
原稿依頼、基礎技術セミナーの開催計画
 - 第 5 回（8 月） 技術部会報告、東海北陸地区合同研修の延期、令和 6 年度以降の
東海北陸地区合同研修の担当、文科省科研費公募
 - 第 6 回（9 月） 衛生管理者養成、文科省科研費公募、研究倫理教育受講状況、補正
予算
 - 第 7 回（10 月） 衛生管理者募集、勤怠管理システム運用準備、年報作成準備、医の
プロムナード発表ポスター掲示、大学認証評価の参加
 - 第 8 回（11 月） 衛生管理者受験、勤怠管理システム稼動状況、東海北陸地区代表者
会議参加、学外研修
 - 第 9 回（12 月） 東海北陸地区代表者会議報告、学外研究会、予算執行協議
 - 第 10 回（1 月） 労働安全関連の業務報告、今後の予定と方針（技術発表会日程、
予算執行、技術カタログ、人事評価など）
 - 第 11 回（2 月） 技術発表会開催調整、予算執行報告、学外研究会参加、人事評価基準、
年報作成進捗状況
 - 第 12 回（3 月） 次年度事業計画(案)、予算計画(案)、技術部会開催日程、技術部の課題
について

- 5) 医のプロムナードにおけるポスター掲示
令和 2 年度技術部研究発表報告内容の紹介

- 6) 局所排気装置 定期自主検査 (検査台数：110 台)
実施期間：2021 年 4 月 8 日～2022 年 3 月 8 日

2. 令和3年度(2021年度)学内技術報告会・研究会、定年退職者講演

2022年3月24日(木) 看護学科棟 大講義室4

学内技術報告会・研究会 [発表6分、質疑応答3分]

司会 器官組織解剖学講座 佐々木 健

座長 先進機器共用推進部 熊切葉子(演題1、2)、器官組織解剖学講座 佐々木 健(演題3、4)
医療廃棄物処理センター 松下清文(演題5)

1) 「化学物質管理の大改正について」 法令準拠型から自立的な管理へ

教育研究支援グループ・医療廃棄物処理センター 松下清文

労働安全衛生法では労働者の職場における健康を確保し、安全に働くことができるよう様々な規制が定められています。このうち、化学物質に関する法令が大きく変わろうとしています。2021年7月に厚生労働省が公表した「職場における化学物質等の管理のあり方に関する検討会報告書 化学物質への理解を高め自律的な管理を基本とする仕組みへ」では、これまでの規制順守による化学物質管理である法令準拠型から自律管理型への転換が提言されています。本発表では法令改正の経緯と本学で対応が必要となる改正点について紹介いたします。

2) 腫瘍病理学講座における業務について

教育研究支援グループ・腫瘍病理学講座 大森志保

腫瘍病理学講座では教育支援、研究支援、診療支援等を行っております。今回はその一部である病理解剖(剖検)についてお話ししたいと思います。

剖検は死体解剖保存法に基づいて行われます。その目的は死因調査の適正を期する事によって公衆衛生の向上を資することとされております。剖検の結果が蓄積されることによって、他の方法では得がたい医学の進歩への貢献が期待されます。また日本病理学会では剖検の重要性とその役割を医療関係者のみならず、一般の方にも広く知っていただきたいと考えて活動しているとされております。剖検に接する事は少ないと思いますが考える機会となりましたら幸いです。

3) 手術手技向上研修(CST)の紹介

教育研究支援グループ・分子解剖学講座 相羽民人

2019年3月の技術発表会において「実践的手術手技向上研修の内容と計画」というタイトルで前任者の佐藤駿平が手術手技向上研修(CST)に関して計画段階の報告を行った。私は2019年8月に現職に奉職し、その準備を引き継いだ。同年11月にはCSTが始まり、今年度末の3月で約2年半(3期)が経過した。これまでのCSTの実施実績を報告しながら、私の主な業務である献体管理について紹介したい。

4) 医用動物資源支援部の業務と自身の研究内容の紹介

教育研究支援グループ・医用動物資源支援部 飯島健太

2021年1月より着任し、これまでの1年間に行ってきた当部の業務内容、および将来的に利用可能なサービスについて説明します。また最近の自身の研究についても簡単に紹介しますので、研究内容や実験手技についての質問など、ご連絡をお待ちしています。[kijima@hama-med.ac.jp]

5) 生物学技術研究会 3 分科会の報告

教育研究支援グループ・器官組織解剖学講座

佐々木 健

2022 年 2 月 17-18 日に、愛知県岡崎市の基礎生物学研究所・生理学研究所において第 33 回生物学技術研究会・第 44 回生理学技術研究会(共催)がオンラインにて開催された。その 2 日目には「技術職員の待遇改善：技術専門職制度と全学組織化」、「Google Workspace の活用」、「コロナ禍におけるリモート」という 3 つのテーマの分科会が開かれ、その中では様々なディスカッションが盛んに行われた。今回、それぞれの分科会に参加した本学技術職員 3 名からの報告をもとに、これらをまとめて紹介(情報共有)する。

「皆様に支えられた 36 年」

川端弥生 技術専門職員 組織形態解析グループ・先進機器共用推進部

神奈川県大学の卒業後、浜松市内の丸山病院検査室から臨床検査技師としての社会人生活をスタートさせた。3年後の1986年本学病院病理部に入職し23年間、臨床の病理標本作製業務に携わった。手術検体・生検および細胞診検体を受付事務の方と技師3名でひたすら標本作製、術中迅速検体の対応、「病理検査結果はまだか？」と臨床医からの問い合わせにあたふた、時には昼休みも無く業務に忙殺されインシデントレポートの恐怖に緊張の毎日だったが、今振り返ってみると若い時代に厳しい環境で働いた経験は、その後の技師人生に大変役立ったと思う。

2009年11月、技術部所属だった事もあり形態系共同実験室（現先端研究支援部門 組織形態解析室）に異動、臨床から研究支援業務へ、また人体だけではなく動物組織も加わった標本作製業務の13年間だった。主に各種標本染色の他、凍結標本作製などを担当。病院病理部時代は「出来て当たり前」を求められたが、形態系共同実験室ではやったことも無い、見たことも無い未知の業務が舞い込むことも多々あり、病理医の方々や他の講座の研究者の方々にご教授頂きながら試行錯誤で邁進した。13年のうち10年近くが女性2名体制で、その間に研究棟改修工事による2度の引っ越しもあったが、業務に支障をきたすことなく何とか乗り切ったのも良い思い出である。標本依頼にみえた研究者の方達と業務以外の話題で盛り上がったり、時には学会や出張に行った際に全



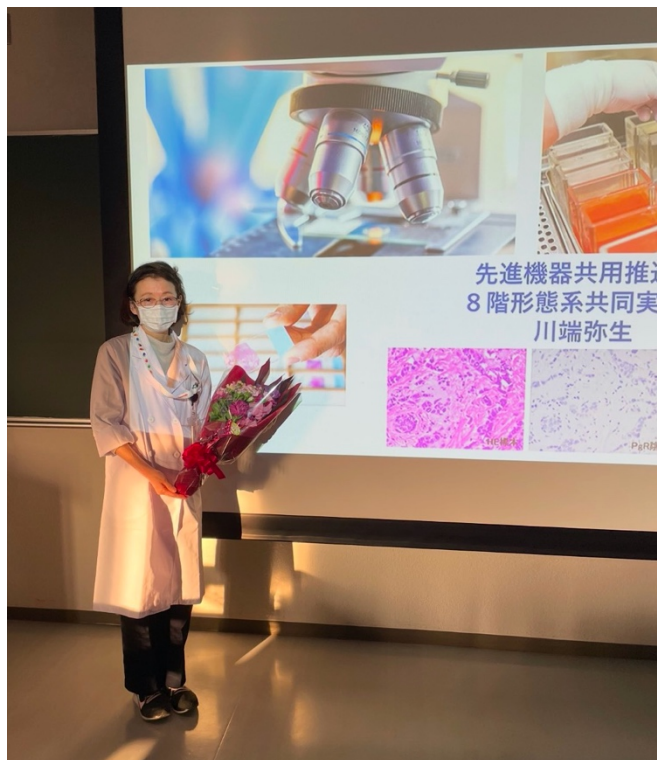
研究支援業務の風景：
「真面目に染色中」

国各地のお土産を頂いたり楽しい時間を過ごさせてもらった。先輩や先生方のサポートもあり、学会発表や論文投稿なども経験させて頂いた。組織内病原体の真菌を染める Grocott 染色の前処理として免疫染色で多用される賦活処理を行うことで結合組織の共染を抑制し、クロム酸では酸化力が強く、判定が困難なムコール菌の染色性を増強させることを報告した。

「お給料をもらいながら勉強させて頂いている」と奮起して来たが、辛い時、苦しい時、迷う時、必ず誰かが手を差し伸べて助けてくださり、無事定年を迎える事が出来たと感謝している。

論文業績

接合菌類（ムコール菌）同定を目的としたグロコット染色－熱処理および過ヨウ素酸による酸化についての検討－ 川端 弥生，五十嵐久喜，梶村春彦 医学検査 vol. 71 No. 1 (2022) pp53-60 DOI: 10.14932/jamt.21-51



退職者記念講演を終えて・・・



研究棟改修工事の仮移転先
手作りの段ボール製受付

「電子顕微鏡とともに歩んだ 38 年間」

太田 勲 技術専門員 機器利用支援グループ・先進機器共用推進部

昭和 59（1984）年 4 月より浜松医科大学実験実習機器センター（現 先進機器共用推進部）に採用されてから 38 年間、主に電子顕微鏡を用いた超微形態構造解析に関わる技術支援・試料作製・技術開発等の業務に携わり、また、所属する技術部では定年までの二年間副技術部長として技術部の運営にも関わらせていただきました。

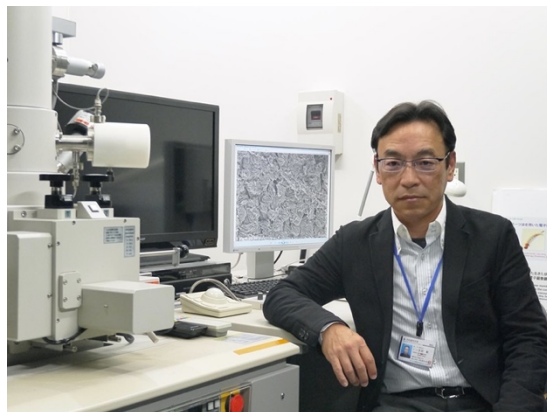
着任当時の時代は、電子顕微鏡の撮影記録はアナログ式で溜まったフィルムを暗室で現像することが日課でした。現像液の匂いが懐かしく思い出されます。支援業務としては、臨床生検試料、動物実験試料、ウイルス・細菌、培養細胞、昆虫類など多岐にわたる試料作製および電子顕微鏡観察撮影を行ってきました。技術開発では、宇宙空間に近い真空下の電子顕微鏡鏡体内において、これまで不可能とされていた含水状態を保持したまま生物の個体や組織・細胞を観察する「NanoSuit（ナノ重合膜）」の技術開発に貢献できたことを嬉しく思います。ご指導いただいた先生方に深く御礼申し上げます。

学外では、電子顕微鏡技術交流のボランティア活動として ITEM（電子顕微鏡技術交流会）という団体を有志が集って組織し、平成 6（1994）年から約 12 年間にわたり主にベトナムにおいて電子顕微鏡学会の再建に協力し、毎年技術交流やシンポジウムなどを開催して技術支援を行いました。国際交流で最も重要な技術支援は、ベトナム全土の個々の研究室、研究者を対象に技術指導、共同研究、機器修理調整などで活動してきました。自分の人生において、これら現地の方々との技術交流ができたことは、自分の視野や価値観が広がり、大変貴重な経験であるとともに楽しい思い出として、今でも記憶に刻み込まれています。

また、学内での課外活動においては、医局対抗野球大会（イシャイラズ）での優勝、市山杯サッカーでの優勝、ソフトボール（ホイホイズ）やバドミントンでの学生との交流、医大ボウリングクラブ、昼休みのテニス、第一病理主催の志賀高原スキーツアーなどにも参加し、多くの方々と出会うことができ、スポーツ好きの私にとって恵まれた環境で過ごすことができました。最後に、今まで大過なく勤め上げることができたのは、先生方や技術部職員をはじめ多くの教職員のご助力のおかげだと、心より感謝しております。長い間本当にお世話になりました。



静岡大学共同利用機器センター
夏休み小学校科学セミナー（2013 年）



「NanoSuit 電子顕微鏡最新技術の紹介および実験」

（主な論文業績）

1. A thin polymer membrane, nano-suit, enhancing survival across the continuum between air and high vacuum. Takaku Y, Suzuki H, Ohta I, Ishii D, Muranaka Y, Shimomura M, Hariyama T. Proc Natl Acad Sci U S A. 2013 May 7;110(19):7631-5. doi: 10.1073/pnas.1221341110. PMID: 23589878

（ナノスーツと命名した高分子薄膜を開発し、生きた動物の SEM 観察を始めて可能にした論文、主にナノスーツを可視化するための TEM 試料作製や生きた動物の SEM 観察撮影に貢献した。）

2. Dressing living organisms in a thin polymer membrane, the NanoSuit, for high-vacuum FE-SEM observation. Ohta I, Takaku Y, Suzuki H, Ishii D, Muranaka Y, Shimomura M, Hariyama T. Microscopy (Oxf). 2014 Aug;63(4):295-300. doi: 10.1093/jmicro/dfu015. PMID: 24824083

（ナノスーツが生命維持に重要な役割を担っていることが示唆され、SEM 観察における従来法との微細構造を比較した論文、日本顕微鏡学会第 72 回学術講演会応用研究（生物系）部門論文賞受賞した。筆頭著者。）

3. In situ preparation of biomimetic thin films and their surface-shielding effect for organisms in high vacuum. Suzuki H, Takaku Y, Ohta I, Ishii D, Muranaka Y, Shimomura M, Hariyama T. PLoS One. 2013 Nov 13;8(11):e78563. Doi: 10.1371/journal/pone/0078563. PMID: 24236023

（様々なモノマー溶液からプラズマ重合によって作製されたナノスーツ薄膜について紹介した論文、主にプラズマ重合によって作製された薄膜を可視化するための試料作製や TEM および SEM 観察に貢献した。）

3. 技術部学外研修および出張報告（新型コロナウイルスの感染状況による中止を含む）

東海・北陸国立大学法人等技術職員合同研修（電気・電子コース）

新型コロナウイルス対応のため延期（該当者なし）

2021年11月15日～17日 名古屋大学（名古屋市）

東海・北陸国立大学法人等技術職員合同研修（生物・生命コース）

新型コロナウイルス対応のため中止（参加予定者：大森志保、近藤未菜子）

2021年9月1日～3日 自然科学研究機構 生理研・基生研（岡崎市）

低圧電気取扱業務特別教育

津田正和

2021年6月16日、24日 浜松ポリテクカレッジ（浜松市）

富山大学技術職員研修

佐々木 健（研修講師）

2021年8月26日 富山大学（オンライン）

化学物質に係わるリスクアセスメント 実務研修会

松下清文

2021年9月21日 浜松労政会館（浜松市）

令和3年度浜松労働基準協会講習会（5t未満クレーン運転の業務特別教育）

相羽民人

2021年9月24日、26日 浜松労政会館・浜名ワークス（浜松市）

第一種衛生管理者受験準備講習会

稲葉勇太

2021年10月27日、28日 浜松労政会館（浜松市）

東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修に係わる技術職員代表者会議

太田 勲、佐々木 健、外山美奈、足立直樹

2021年12月15日 名古屋大学（オンライン WEB 開催）

令和3年度静岡大学技術発表会

太田 勲、佐々木 健（口頭発表）、外山美奈、足立直樹、相羽民人、徳永雄平、松下清文

2021年12月23日 静岡大学（オンライン WEB 開催）

第29回三重大学技術発表会

太田 勲

2022年2月4日 三重大学（オンライン WEB 開催）

第33回生物学技術研究会

太田 勲、佐々木 健（ポスター口演発表）、外山美奈、足立直樹、堀口 涼、熊切葉子、

松下清文、飯島健太、村松 歩、青島拓也、徳永雄平、弘島真規

2022年2月17日、18日 岡崎コンファレンスセンター（オンライン WEB 開催）

実験・実習技術研究会 2022

佐々木 健

2022 年 3 月 3 日、4 日

東京工業大学（オンライン WEB 開催）

第 1 回東海国立大学機構技術発表会岐阜大学会場

相羽民人 ほか

2022 年 3 月 8 日

岐阜大学（オンライン WEB 開催）

【オンライン研修報告】

富山大学技術職員研修（オンライン）参加報告

教育研究支援グループ 佐々木 健

本研修は、富山大学の技術部技術職員等に対し、職務遂行に必要な知識、技術を習得させるとともに、相互啓発の機会を与えることにより、職務遂行に必要な能力、資質等の向上を図ることを目的として開催された。内容は、「安全衛生」と「技術部組織」のセッションが組み立てられており、組織化に取り組んでいる富山大学の技術部技術職員に対して、浜松医科大学技術部の経緯や現状をその参考にしたいという趣旨で、佐々木に技術部組織セッションでの講演依頼があった。このような経緯で、今回、「浜松医科大学における技術職員組織化の経緯と問題点、技術部として目指そうとしているもの」というタイトルで講演を行うに至った。なお、受講者に事前に配布された本講演の要旨も本報告書の後半に添付する。

期 間：令和 3 年 8 月 26 日

場 所：富山大学（リモート講演によるオンライン開催）

五福会場：総合教育研究棟(工学系)1 階 11 講義室

杉谷会場：共同利用研究棟セミナー室

Zoom による個別受講

参加人数：受講者 41 名、講師 2 名

日 程：

13：00 受付

13：30 ≪開講式／オリエンテーション≫

13：40 《安全衛生セッション》

東北大学 工学研究科・工学部 技術部 安全衛生管理班 健康安全管理室 玉木俊昭 氏
（座長）杉谷キャンパス 八田秀樹

（休憩）

15：20 《技術部組織セッション》

浜松医科大学 技術部（器官組織解剖学講座） 佐々木 健 氏
（座長）五福キャンパス 桐 昭弘

16：40 閉講式

浜松医科大学における技術職員組織化の経緯と問題点、技術部として目指そうとしているもの

佐々木 健（浜松医科大学技術部 器官組織解剖学講座配属）

tsasaki@hama-med.ac.jp

1. 背景

浜松医科大学では 1974 年の開学以来、いわゆる教室系技術職員を各部署に配置し、これらの技術職員は何回かの組織改編を経て現在の技術部という共通組織所属に至っている。直近では、2019 年の改組により、本技術部は全 28 人の職員を 2 つのグループに分け、各グループに正副グループ長を置くピラミッド型(階層性)の組織に再編された。

一方、技術部の組織化は、技術職員の待遇改善のみならず、業務の効率化や技術の継承を目的としている。本講演では浜松医科大学の技術部の組織化の経緯や、その目的、さらに将来的な展望について述べる。

2. 組織化の経緯

(1) 全国的な動き

旧来から技術職員の法的な身分が不明瞭であることが問題の一つであり、学校教育法では、大学に置くべき職として学長、教授、助教授、助手、事務職員が定められているのに対し、技術職員は副学長や講師と同じく「必要に応じて置く職」となっている。その後、1968 年に技術職員の入職資格は高卒以上、職務内容は教員の補助という文部省人事課長通知があったが、あくまでも補助職員という位置付けであった。

このような状況の中、技術職員の身分の明確化や待遇改善の働きかけが行われたが、人事院からは「技術職員の身分(職階)は、組織化や研修制度によりその根拠を明確にする必要がある」という旨の回答があった。このため、各大学等では技術部という組織化や職位選考(昇格)の基準を模索していったが、その結果、1998 年の文部省訓令により、技術職員(係員・主任級)、技術専門職員(係長級)、技術専門員(課長補佐・室長級)という職階が設立された。さらに 2004 年には国立大学の法人化が行われ、その中期目標の中でも「技術職員の組織化と効率的な運用」が求められ、現在に至っている。

(2) 浜松医科大学の動き

浜松医科大学は先の全国的な動きに倣い、法人化に先駆けて 2000 年に技術部の 1 回目の組織化を行ったが、それは大学事務局や他大学の組織化を参考にしたピラミッド型であった(図 1)。その主な目的は、技術職員の機能的で効率的な運用と同時に待遇改善もあった。しかしながら、医学部特有の講座制という縦割り組織の壁、業務内容の大きな違いによる共通目標や意識の共有の難しさ、さらに技術部長と所属長(講座の長)による二重支配など多くの問題があったため組織が形骸化し、学内では「技術部はバーチャル組織」と揶揄されたほどであった。

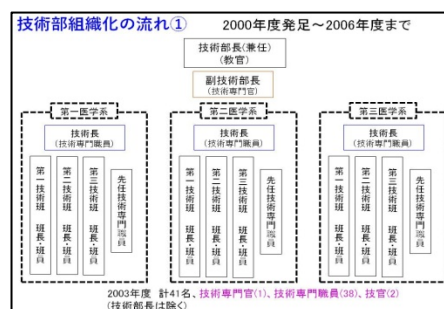


図 1. 技術部の 1 回目の組織化

このようなバーチャル組織からの脱却を図るため、2007 年に組織改編(2 回目の組織化、図 2)を行った。具体的には、業務内容の類似性や配属先の関連性などに基づいた複数のグループ化を行い、その中で技術の研鑽・継承や業務の効率化を図れるようにした。また各職員をある程度、並列化することにより、個々の能力の尊重とその可能性を広げることも狙った。



図 2. 技術部の 2 回目の組織化

これにより各職員の活躍の場が広がり、学内からの評価も受けるに至ったが、組織本来の上意下達の実効性はほぼ有しないものになった。また、従来の縦割り

や二重支配は解消されなかったため「バーチャル組織」の別称(蔑称)も払拭するには至らなかった。

さらにその後、浜松医科大学は静岡大学との合併構想が持ち上がり、静岡大学技術部のピラミッド型組織に合わせる必要性が生じたことや、先ほどの上意下達の機能を有する組織にするために三度組織化(組織改編)を図ることとなった。今回の組織化は、今までの反省を活かし、なるべく近い職務内容で2つのグループに分け、グループ長2名(1名は副技術部長兼任)と副グループ長2名を置き、毎月グループ長会議(執行部)を開催して技術部の方針や行事等を決定するものとした(図3)。現在、この組織体制の運用3年目を迎えており、執行部による主体的な組織運用は徐々に機能するようになってきた反面、執行部と各技術職員との温度差があるのも事実である。また、縦割りや二重支配の弊害は依然として残ったままである。

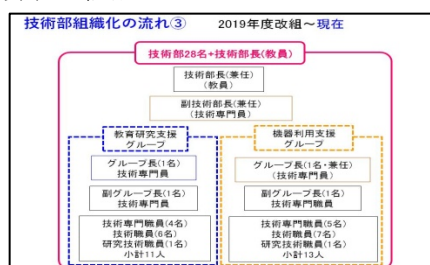


図3. 技術部の3回目の組織化

3. 浜松医科大学技術部の特徴や取り組み

(1) 技術部主催の学内セミナーの開催

浜松医科大学技術部は様々な分野の技術・知識に関する学内セミナーを開催している。対象は技術職員のみならず、教員や大学院生、事務職員等であり、多岐にわたる内容のものを開催している(図4)

学内のセミナー(技術部セミナー)開催	
2019年度	
・第1回 10月7日 医工連携拠点4階 セミナー室	「(技術職員向け)科研費書き方セミナー」
・第2回 2月14日 医工連携拠点4階 セミナー室	「フローサイトメーターの機器原理・アプリケーション例紹介・応用について」
2018年度	
・第1回 7月12日 講義棟3階 302教室	「エクソソームの基本とその応用」
・第2回 10月24日 講義棟3階 302教室	「実験室での薬品と取り扱いと注意点」
・第3回 12月18日 講義棟3階 302教室	「新しい in situ hybridization 法」
	「ZEISS 社の無料画像解析ソフトとデジタルカメラ」

図4. 技術部主催の学内セミナー

(2) 技術的・学術的研究やその発表の推進

浜松医科大学技術部は各職員が可能な範囲で研究することが認められており、その発表も盛んに行われている。しかしながら本来の支援業務に支障が出る恐れもあるため、技術職員の研究に関しては所属長の許可が必要である。一方、技術支援を行った研究に関し

ては、何らかの方法(連名や謝辞等)で実績として残すことも取り組んでいるが、支援先の事情もあり進んでいないのも事実である。

(3) 技術職員自らの研究費獲得(科研費)

浜松医科大学では、技術職員の研究費の獲得が認められている(業務に支障が無い範囲、所属長が判断)。また、学内にも技術職員に対する競争的研究資金が用意されている(図5)。

(4) 博士号の取得や取得者の採用

浜松医科大学の技術職員は、職務に関連する資格のみならず、約半数の職員が博士号を有している(図5)。また、在職中に博士号を取得する場合もある。これは高度な専門知識を必要とする技術支援業務に大きく貢献するものと思われる。

・研究資金(科研費や学内研究資金)の獲得(2011~21年)	
学外(科研費、代表のみ)	
基盤研究(C)	10課題
若手研究(B)	1課題
奨励研究	5課題
学内(研究プロジェクト資金、代表のみ)	
学内の研究推進企画室が課題を募集し審査	
各課題5~10万円程度の研究資金を5演題前後に配分	
・2019年度 5演題	・2020年度 7演題
・学位(博士)の取得者が在籍	
現28人中13人が博士号を取得、1名が博士課程在籍中	

図5. 浜松医科大学技術部の研究費と学位

(5) 技術部内での勉強会の開催

資格や博士号のみならず、技術職員にとって日々の技術研鑽は極めて重要である。浜松医科大学技術部は、技術的・学術的内容の配信動画を YouTube 内にアーカイブ化し、それを各技術職員が自由に視聴して技術の研鑽や知識の向上に役立てる試みを行っている。

4. 浜松医科大学技術部が目指すもの

浜松医科大学技術部では、以下のような目標を掲げている。1)体系的で機能的な技術部組織を確立し、効率的な学内支援。2)技術職員間の連携や意識の共有。3)高度な支援を可能にするエキスパートの育成。4)学位取得や研究資金の獲得はエキスパート育成や技術研鑽の推進力になり得る。このような目標のもと、浜松医科大学の技術部は、特色ある組織となり全国的に認知されることを目指している。

参考文献

1) 栄慎也 (2021) 東京大学の技術職員の新谷なキャリアパスについて. 東京大学技術報告 第33号: 31-34

【代表者会議報告】

令和 3 年度東海・北陸地区国立大学法人等
技術職員合同研修に係る技術職員代表者会議（web）参加報告

技術部グループ長会議 太田 勲、佐々木 健、
足立直樹、外山美奈

期 間：令和 3 年 12 月 15 日（水）14：00～16：30

場 所：Teams による web 会議

出席者：38 名（21 機関）

【令和 3 年度合同研修報告】

1. 電気・電子コース（担当：名古屋大学）

名古屋大学の児島氏から以下の報告があった。

テーマ：電子回路（テルミン）の動作解析と製、Arduino による簡易計測システムの構築

開催日：令和 3 年 11 月 15 日（月）～11 月 17 日（水）

開催方式：対面

参加人数：12 名

2. 生物・生命コース（担当：生理学研究所、基礎生物学研究所）

基礎生物学研究所の三輪氏から以下の報告があった。

テーマ：質量分析、バイオインフォマティクス、遺伝子改変、電子顕微鏡観察

開催日：令和 3 年 9 月 1 日（水）～9 月 3 日（金）

※新型コロナの影響のため中止

【令和 4 年度合同研修の開催について】

1. 情報コース（北陸先端科学技術大学院大学）

北陸先端科学技術大学院大学の中野氏から以下の説明があった。

SNMP（シンプルネットワークマネジメントプロトコル）を中心に演習を含めて行う。

2. 物理・化学コース（分子科学研究所）

分子科学研究所の繁政氏から以下の説明があった。

実験実習 A コース：ESR SQUID、B コース：顕微ラマン分光、etc.

【協議事項】

1. 合同研修担当機関について

令和 6 年度（2024 年度）以降未決定であり研修準備期間を考えると早急に研修を担当して頂く機関を決める必要があるため本会議内で研修担当機関について審議した。

合同研修実施可能調査アンケート（WEB）を参考に作成した合同研修担当表（案）について確認を行った。

令和6年度から11年度までの担当機関（11コース）が決定した（令和9年度電気・電子コースは未確定）。未確定分は後日、調整することにした。

2. 技術支援に関する諸課題について

特になし

3. 総合技術研究会の開催方法（地区開催）について

（1）全国の国立大学協会各地区支部（当支部は東海北陸地区）技術職員合同研修に係る代表者が自身の機関に対して総合技術研究会の分散開催について考えて頂く窓口になって頂くことを提案し、これが承認された。

（2）代表者が地区別開催について各機関にどの様に説明するか、および各機関で審議する内容については総合技術研究会運営協議会に資料作成を依頼することにした。

（3）代表者会議では今後、地区開催についての審議、取りまとめ等は行わないこととし、独自の会議体を作るのが妥当ということになった。

4. 技術職員の管理職研修（WEB）の案内（各機関の組織の指針にこだわらない研修）

遺伝学研究所の古海氏から参考資料をもとに研修の説明があり有志の方で、技術職員管理職のマネジメントの勉強会、意見交換の場を、まずはメールから始めませんかとの提案があった。メールでのやり取りについては代表者会議用のメールアドレスを使用してもよいことが承認された。

	機械	電気・電子	情報	生物・生命	物理・化学	複合領域
令和4年度			北陸先端科学技術大学院大学		分子科学研究所	
令和5年度	金沢大学					名古屋大学
令和6年度		豊橋技術科学大学		静岡大学 国立遺伝学研究所		
令和7年度			名古屋大学		名古屋工業大学	
令和8年度	福井大学					核融合科学研究所
令和9年度		名古屋大学		浜松医科大学		
令和10年度			金沢大学		分子科学研究所	
令和11年度	岐阜大学					富山大学

4. 職員表彰

令和3年度 医学教育等関係業務功労者表彰

太田 勲 技術専門員（機器利用支援グループ）

2021年度 技術部組織・体制

役員名簿

技術部長(兼)	間賀田泰寛	教授	分子病態イメージング研究室
副技術部長(兼)	太田 勲	技術専門員	機器利用支援グループ

機器利用支援グループ

グループ長(兼)	太田 勲	技術専門員	先進機器共用推進部
副グループ長	足立直樹	技術専門職員	先進機器共用推進部

教育研究支援グループ

グループ長	佐々木 健	技術専門員	器官組織解剖学講座
副グループ長	外山美奈	技術専門員	総合人間科学講座

担当係一覧

担当業務	リーダー	協力員
総括（学内外連絡・全般業務）	太田	熊切
WEB 関連	村松	北本綾、北本卓、近藤
部会	川島	相羽、徳永、稲葉
技術年報	佐々木	
学内研修	佐々木	
学内安全委員	松下	津田、宮城、青島、大森、稲葉
学外研修・出張処理・予算処理	外山	神谷、川端
グループ長会議・議事録作成	足立	
歓迎会・祝賀会（懇親会会計処理）	外山、熊切	弘島
勉強会（バイオイメージング）	合田	太田
勉強会（その他）	佐々木	松下、津田、青島、堀口、飯島、池田、石井、青木

人事異動

退職

太田 勲	技術専門員	機器利用支援グループ	(先進機器共用推進部)
川端弥生	技術専門職員	機器利用支援グループ	(先進機器共用推進部)

浜松医科大学技術部年報 2020-2021

2025 年 3 月発行

発行者 浜松医科大学 技術部

編集 技術部年報製作委員会 2020-2021

〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山 1-20-1

e-mail gijutsu@hama-med.ac.jp